

令和2年度 動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査結果

(令和3年1月31日現在)

1 犬と猫の寄生虫調査

- (1) 検体採取期間 令和2年4月から令和3年1月まで
- (2) 対象及び規模 犬3頭(延べ検体数6)、猫18頭(延べ検体数30)の糞便
犬3頭、猫5頭の虫体確認
- (3) 方法 直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定
解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定
- (4) 結果

糞便検査(虫卵)

複数の寄生虫類に感染していた個体はなかった。

対象 (延べ検体数)	陽性頭数 (%)	内訳		
		回虫 (%)	イソスラ属 (%)	条虫(エキソックス含む)、鞭虫、鉤虫等 (%)
犬3頭 (6検体)	0	0	0	0
猫18頭 (30検体)	3 (16.7)	2 (11.1)	1 (5.6)	0 (0)

解剖検査による虫体確認

検体	陽性頭数 (%)	内訳	
		犬糸状虫 (%)	条虫(エキソックス含む) (%)
犬3頭	1 (33.3)	1 (33.3)	0
猫5頭	1 (20.0)	0	1 [猫条虫] (20.0)

2 犬と猫のSFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルス遺伝子モニタリング調査

- (1) 検体採取期間 令和2年2月から令和2年12月まで
- (2) 対象及び規模 犬5頭の血清、唾液、猫18頭の血清、唾液
- (3) 方法 リアルタイムPCR法によるウイルス遺伝子の検出
検査は、東京都健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科に依頼
- (4) 結果

	血清			唾液		
	検体数	陽性数	%	検体数	陽性数	%
犬	5	0	0.0	5	0	0.0
猫	18	0	0.0	18	0	0.0
計	23	0	0.0	23	0	0.0

3 狂犬病ウイルス検査のための安全で簡便な検体採取方法の検討

- (1) 期間 通年（随時）
- (2) 対象 疑似狂犬病検体採取訓練に参加する研修生
- (3) 方法 ウレタン樹脂製脳モデルの訓練での活用
- (4) 結果 研修生に脳モデルによる脳構造の理解促進についてのアンケート調査を実施
(助言・指導：狂犬病臨床研究会および国立感染症研究所獣医科学部)